

第6節

持続可能性への留意

これまで見てきた都市化や高齢化といったメガ・トレンドを包含する世界的な政策課題として、「持続可能な開発」が再度その重要性を増している。すなわち、国際連合のミレニアム開発目標は、本年「持続可能な開発目標」に発展することが予定されている。第I-2-6-1-1表は、国際連合のプロトタイプ・グローバル・サステナブル・ディベロップメント・レポートにおいて、1950年から2013年までの持続可能な開発に関する進捗度合いを示す一例として示されたものである。同レポートにおいては、経済発展や都市化が急速に進んだ一方で、最大の課題である貧困や飢餓の撲滅には

さらなる努力が必要と指摘されている。

国際連合における議論と並行して、世界経済フォーラムにおいては、世界競争力指数に、社会的持続可能性と環境的持続可能性を加味することによって、持続可能性競争力指数を作成している。持続可能な競争力は、「社会的、環境的持続可能性を保障しつつ国家を長期的に生産的にするための制度、政策及び要素のまとまり」と定義されている¹⁵。わが国は、世界競争力指数と同様、持続可能性競争力指数においても世界第6位と高い順位となっており（第I-2-6-2表）、競争力の背景にある技術力に加えて、持続可能な開発を可

第I-2-6-1-1表 世界の人々（単位：10億人）

	1950	1970	1990	2000	2012
2.15米ドル（PPPベース）／日未満の生活			3.1	3.3	2.7
発展途上国における相対的貧困線以下の生活			2.5	2.7	2.8
飢餓		1.0	0.8	0.8	0.85
安全な飲料水が無い			1.25		0.74
基礎的な衛生施設へのアクセスが無い			1.80		2.44
電気へのアクセスが無い		1.8	2.0	1.65	1.27
移民			0.16		0.21
60才以上	0.2	0.25	0.5	0.6	0.81
インターネット利用者	0	0	0.003	0.36	2.4
都市居住者	0.75	1.35	2.28	2.86	3.63
スラム居住者			0.67	0.78	0.87
後発開発途上国の人口	0.20	0.31	0.51	0.66	0.88
世界人口	2.5	3.7	5.3	6.1	7.1

資料：United Nations (2014), Prototype Global Sustainable Development Report – Executive Summary より抜粋、日本語訳の上作成。

第I-2-6-1-2表 世界競争力指数（右）と持続可能性競争力指数（左）

順位	国／エコノミー	スコア	順位	国／エコノミー	スコア
1	スイス	5.70	1	スイス	6.80
2	シンガポール	5.65	2	ノルウェー	6.28
3	米国	5.54	3	フィンランド	6.18
4	フィンランド	5.50	4	ドイツ	6.18
5	ドイツ	5.49	5	オランダ	6.13
6	日本	5.47	6	日本	6.06
7	香港	5.46	7	スウェーデン	6.00
8	オランダ	5.45	8	ニュージーランド	5.99
9	英国	5.41	9	オーストリア	5.92
10	スウェーデン	5.40	10	デンマーク	5.91

資料：World Economic Forum, The Global Competitiveness Report 2014-2015 及び Sustainability Adjusted Global Competitiveness Index 2014-2015 より作成。

15 原文では、the set of institutions, policies, and factors that make a nation productive over the long term while ensuring social and environmental sustainability とされている。

能とする社会的な制度の面でも世界で高いレベルにあることがわかる。現在、わが国で検討されている高齢化社会と両立した都市政策から得られた知見や、持続

可能な発展を果たすために適切な制度設計といった面からも、持続可能な開発のために貢献していくことが必要と考えられる¹⁶。

16 OECD (2015), *Aging in Cities* においては、高齢化社会における都市政策が議論されているが、その中で富山市と横浜市の事例研究がとりあげられている。